

。○。○。○。

下水道の最新情報をお届けします！

発行日：2018. 1. 30

下水道機構の『新技術情報』 第317号

(公財) 日本下水道新技術機構 <https://www.jiwet.or.jp/>

。○。○。○。

最低気温が氷点下の日を冬日というそうですが、昨日の時点で東京は8日連続冬日となっていて、1984年2月以来の34年ぶりとのことだそうです。さすがのまるまる子も風邪をひいてしまいました。病院へ行ったのですが、インフルエンザと思われる方が大勢いらっしゃいました。皆様もどうぞお気を付けてください。

それでは機構メールマガジン『新技術情報』第317号をお届けします。

業務に、Tea Break にどうぞご活用ください。

◆◆◆トピックス◆◆◆

■インフォメーション

- ・今週はありません

■機構の動き

- ・今週は2/2(金)に審査証明委員会、新技術現場研修会を開催します

■Tea Break

- ・ドイツの教育事情(技術評価部 M&A さんからの投稿です)
- ・ドバイに行ってきました(資源循環研究部 T. I さんからの投稿です)

■まる子のゆいまーる

- ・今回のゆいまーるは、お休みします

■国からの情報

- ・1/24 付及び1/19 付下水道ホットインフォメーション

。○。○。

インフォメーション (最新の話題です)

。○。○。

●今週はありません

。○。○。

機構の動き （機構の行事予定です）

。○。

●行 事：平成 29 年度 第 2 回審査証明委員会

日 時：平成 30 年 2 月 2 日(金) 10:00~17:20

場 所：機構 8 階 特別会議室

案 件：平成 29 年度 建設技術審査証明（下水道技術）の各依頼技術の審議

●行 事：第 66 回新技術現場研修会

日 時：平成 30 年 2 月 2 日(金) 13:20~17:00

場 所：横浜市旭区川井本町、及び、横浜市緑区西八朔町・小山町

テーマ：社会情勢に応じた河川事業との連携や既存施設有効活用による効率的な浸水対策

対象者：下水道機構の出捐団体・賛助会員及び公共団体等の下水道技術者等

参加費：無料

定 員：45 名（定員になり次第締め切らせていただきます。）

※申込み多数の場合、1 機関 1~2 名とさせていただく場合があります。

※詳細及びお申し込みはこちら

→ <https://www.jiwet.or.jp/trainings/workshop-at-site/workshop-at-site-info>

○行 事：第 367 回技術サロン

日 時：平成 30 年 2 月 8 日(木) 16:00~17:00

場 所：機構 8 階 中会議室

講演者：埼玉県 下水道局 参事 兼 下水道事業課長 本田 康秀 氏

テーマ：「埼玉県下水道局の最近の取組」

※お申し込みは機構ホームページから

→ <https://www.jiwet.or.jp/trainings/tech-salon/salon-form>

。○。

Tea Break （機構職員の感じるまま）

。○。

●ドイツの教育事情(技術評価部 M&A さんからの投稿です)

本格的な入試シーズンが幕開けとなり 1 月中旬に大学入試センター試験が行われ、さらに高校入試も全国でスタートしています。学生は希望する学校に進学するために、厳しい試験を受けなければなりません。プレッシャーと闘う受験生は、本当にたいへん、これは海外も同様でしょう。そこで今回、ドイツの教育事情についてお話しします。

ドイツ人と手紙やメールのやり取りなどからお気付きかもしれませんが、宛名あるいは受取り氏名の敬称に男性を表す Herr、女性を表す Frau のほか、ドクターのタイトルを表す Dr.、大学教授を表す Prof.、両方のタイトルを表す Prof. Dr. などが書かれています。このことが表すのは、ドイツが学術分野を修めた人に敬意を払う、日本以上の学歴社会であるということが読み取れます。日本の大学進学率は約 53%ですが（条

件等により諸数値あり)、ドイツでは40%前後で、大学卒業率は30%程度ようです。大学の卒業資格であるディプロムまたは修士を取得し、さらに博士課程を修了すると、その道はさらに険しくなります。Dr. というタイトルは、その厳しい道を踏破したエリート中のエリートに与えられることから、大卒者がドイツではエリートであるということです。この大学進学前に遡ると、州によって教育事情が異なるようですが、基本的には10歳の時に進路選択をし、ギムナシウム(日本の小学5年生から大学1年生の学年に相当)か他の学校に行くことになります。ギムナシウムに行った場合は、最後の2年間の成績と、ギムナシウム卒業時に実施されるアビトゥーア試験の総合成績が一定のレベルに到達した者に対し大学入学資格(アビトゥーア)を付与する仕組みになっています。この資格を取得した者は、希望する大学や学部に入ることが許されるようになっています。ドイツのたいへんさは、日本と同じかそれ以上かもしれませんが、なんといっても日本よりも少し早い段階で進路を決めることになり、ちょっとかわいそうな気がします。

P. S ドイツの教育制度について、「月刊下水道」3月号に少しですが掲載されます。参考にどうぞ。

●ドバイに行ってきました(資源循環研究部 T. I さんからの投稿です)

ドバイ空港は乗り継ぎの時に何回か滞在したことがありましたが、ドバイ市内は今回初めて訪問しました。ドバイと言えば世界一高いビル(ブルジュ・ハリファ、828m)やヤシの木を模した世界一大きな人工島(パーム・ジュメイラ)で有名です。ブルジュ・ハリファは124階(452m)に展望台があり、観光客で大賑わいです。パーム・ジュメイラは、ヤシの木の幹の部分は道路や鉄道が通り、両側には高層の高級レジデンス、葉の部分はプライベートビーチ付きの邸宅、丸く囲んだ外側はアトランティスをはじめとする高級リゾートホテルとなっています。砂漠の何もなかった国が人口の9割を占める外国人労働者によって国おこしをし、年間約1500万人の観光客を集めています。ここまで思い切って外国人労働者を受け入れインフラ整備をする一方、巨大なモールではこうした外国人労働者の働きで夜中の12時まで店が開いています。こういった国がもう一つ二つあれば、世界の難民問題などおこらないのではないかと思います。

_____。○○。

まる子のゆいまーる (皆様との交流の場です)

。○○。_____

●今回のゆいまーるは、お休みします

!(^^)!皆さまからの情報提供をお待ちしております(^^♪

提供はこちらまで→ jiwet@jiwet.or.jp

※テキストは原則400字以内。写真等はA4版にして原則2ページ以内。

なお、お寄せいただいた情報はそのまま掲載することを基本としますが、掲載の可否は機構にて判断させていただきます。

↓コチラからは、国からの下水道ホットインフォメーションを掲載しています。

=====

下水道ホットインフォメーション（2018. 1. 24 国からの最新情報です）

送信元：国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部下水道事業課企画専門官 堂蘭洋昭

=====

先週、金沢に行く機会をいただきました。金沢市は5年前まで出向させていただいたところですが、久しぶりにお会いする職員さんも多く懐かしい思いがしました。21世紀美術館（年250万人超の入館者）や駅前のもてなしドーム（世界で最も美しい駅13の一つ）等を整備する一方で、ひがしの茶屋街や主計町（いずれも重伝建地区）、まちなかの用水路（55本の用水路）等の保全、また、景観条例（全国の景観条例の先駆け）や用水保全条例等の独自の条例を制定するなど、歴史・文化を大切にし、開発と保全のメリハリを具体化したまちづくりは、全国の関係者から尊敬を集めています。新幹線の開業後、観光客が増加し喜ぶ反面、その急激な変化への対応に苦慮しているとのことでしたが、課題に前向きに取り組む職員の皆さんと接して私自身も元気と活力をいただきました。感謝感謝です。ちなみに前職の岡山市とは正反対で雨の日が最も多い金沢市ですが、うかがった日はこの時期に珍しく快晴でした。日頃のおこないのよさでしょうか^^

★★★★★ 今週のヘッドライン ☆☆☆☆☆

○下水道全国データベースで「H29SM 同好会発表事例」の公開を開始しました（下水道事業課）

○広域的な下水汚泥の利活用に向け、「第1回下水汚泥利活用推進検討委員会」を開催しました（下水道企画課）

○下水道PRポスター第7作「下水って何？」が完成！（京都市）

○トイレに流せる製品のIWSFG規格第2原案が公開されました（日本下水道協会）

○次世代下水道小委員会講演会「下水中資源活用の最前線」のご案内

（土木学会環境工学委員会 次世代下水道小委員会）

=====

○下水道全国データベースで「H29SM 同好会発表事例」の公開を開始しました（下水道事業課）

国土交通省では、持続可能な下水道事業に向けて促進しているストックマネジメントの概念について普及と定着に向けて、平成28年度から都道府県単位でのSM勉強会を、平成29年度からは全国を6つのブロックに分けてのSM同好会を開催しています。

それらの会を通じて、ストックマネジメントへの知見を深めつつ、ストックマネジメントの好事例や工夫の共有により、下水道事業全体でのストックマネジメントのレベルアップや効率化を図ることとしております。

今年度を実施した各SM同好会において使用した資料のうち、他団体の参考になりそうな資料を抜粋して、本日からベストプラクティスとして『下水道全国データベース』で公表することとしましたのでお知らせします。

<下水道全国データベースアドレス>

<https://portal.g-ndb.jp/portal/>

※ページ中段辺りの『ベストプラクティス集』で公開しています。

各地方公共団体における工夫や取組事例等について説明した資料となっており今後のストックマネジメントの実践において、参考になるものと思われれます。

○広域的な下水汚泥の利活用に向け、「第1回下水汚泥利活用推進検討委員会」を開催しました (下水道企画課)

広域的な汚泥の資源・エネルギー利用に関する更なる取組促進に向けた検討を行うため、このたび、国交省は「下水汚泥利活用推進検討委員会」(座長：森田 弘昭・日本大学生産工学部土木工学科教授)を設置しました。本年度は、都道府県が策定する広域的な汚泥利用計画に関する「バイオソリッド利活用基本計画策定マニュアル」の平成30年度以降の見直しも含め、地方公共団体の汚泥利用の現状と課題を整理するとともに、具体的な推進策についてとりまとめる予定です。下記のとおり第1回検討会を開催しましたので、お知らせいたします。

【第1回下水汚泥利活用推進検討委員会】

□日時：1月23日(火) 10:00~12:30

□主な検討事項：

- ・汚泥利用の現状および課題
- ・下水処理場のバイオマスステーション化に向けた課題整理・方策の検討
- ・最適な下水汚泥有効利用の導入方法

□今後の予定：

次回は、2月23日を予定しております。

※ 検討会の当日資料は、下記の国土交通省ホームページにて公表いたします。

http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewerage/crd_sewerage_tk_000033.html

※ 「バイオソリッド利活用基本計画(下水汚泥処理総合計画) 策定マニュアル(案)」

<http://www.mlit.go.jp/crd/city/sewerage/info/biosolid/030829.html>

○下水道PRポスター第7作「下水って何？」が完成！(京都市)

京都市の下水道事業を担う若手職員で結成した「下水道事業PRプロジェクトチーム」が、第7作目となる下水道PRポスターを作成しました。

「下水道事業PRプロジェクトチーム」では、大雨からまちを守る雨水幹線や水環境保全を担う下水処理施設など、下水道の様々な役割をPRしてきました。今回のポスターは、普段聞きなれず、思わず「何？」と疑問を感じてしまう「合流改善」や「高度処理」、「消化ガス」といった下水道キーワードを記載し、市民の皆様に「下水道って、汚れた水をきれいにするだけではないの？」と興味を持っていただくきっかけになればと思い作成しました。当ポスターは、京都市営地下鉄全駅及び京都市内の学校、京都市役所等で掲示し、平成29年9月に開設した下水道事業PRプロジェクトチームのホームページにおいても掲載しておりますので、どうぞご覧ください。

下水道事業PRプロジェクト 下水道PRポスター ホームページ

<http://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000225074.html>

○トイレに流せる製品の IWSFG 規格第2原案が公開されました（日本下水道協会）

IWSFGは2017年7月、第1原案を公開し、意見募集したところ国内外から多数の意見が寄せられました。出された意見を踏まえ、第1原案を一部変更し、2018年1月18日に第2原案をWEB上に公開しました。第2原案に対し、3月1日を期限に再度、意見募集しています。主な変更内容等はリンク先をご参照下さい。

<http://www.jswa.jp/wp/wp-content/uploads/2018/01/00902f197bf0f68d9b4d6b346fefdb4c.pdf>

今後、IWSFGは受け付けた意見を再精査し、本年4月を目処に規格を発行する予定です。下水道協会は、規格発刊後の国内での取り扱いについて、会員及び関係者のご意見を伺いながら検討してまいります。

問合せ先：国際課（メール：kokusai@ngsk.or.jp、電話：03-6206-0289）

○次世代下水道小委員会講演会「下水中資源活用の最前線」のご案内

（土木学会環境工学委員会 次世代下水道小委員会）

土木学会環境工学委員会では、次世代の下水道システムのあり方について議論・検討するための「次世代下水道小委員会」を設置しており、より安全・高効率な下水道システムへの発展を目指した活動を展開しております。

今般、研究の社会実装に向けて、下水道の実務を担当する地方公共団体及び民間技術者への研究情報の伝達を目指して講演会を企画しました。下水からの資源・エネルギー回収を中心に、最新の研究成果、技術の動向などについて密度の濃い情報を得られるまたとない機会となっております。

特に関係自治体、関係部署の若手技術者の皆様のご参加をよろしく申し上げます。

日 時：平成30年2月20日（火）13:00-16:30

場 所：ホテルマイステイズ札幌アスペン（札幌市北区北8条西4丁目）

参加費：無料（申込先着順で定員になり次第、受付を締め切らせて頂きます）

プログラム：

■岡本誠一郎（国土交通省水管理・国土保全局下水道部）（予定）

「プロジェクトGAM ～できること・めざすこと・今後の可能性」

■寺田智勝（岩見沢市水道部）

「岩見沢市の下水道汚泥肥料有効利用の取り組みについて」

■日高平（京都大学）

「下水処理場での混合メタン発酵の研究動向と課題」

■船水尚行（北海道大学）

「Resources Oriented Sanitation—その考え方と要素技術—」

■総合討論

セミナーの詳細及び申込方法に関しては、下記 URL を参照ください。

http://committees.jsce.or.jp/eec/system/files/jisedai_sapporo.pdf

=====

【参考情報】

◆滑らないマンホール 名古屋市下水道科学館が受験生用バッジ <1/24 中日新聞>

<http://www.chunichi.co.jp/article/aichi/20180124/CK2018012402000054.html>

◆マンホールラリー楽しんで 5カ所制覇で本物ゲットも 柏市「下水道事業に関心を」 <1/22 産経ニュース>

<http://www.sankei.com/region/news/180123/rgn1801230020-n1.html>

◆川崎市／下水汚泥焼却灰のセメント原料化を再開／3月から、放射性物質の低減確認 <1/22 日刊建設工業新聞>

<https://www.decn.co.jp/?p=97061>

◆【水と共生（とも）に】ベトナム 水処理事業で熾烈な戦い <1/15 SankeiBiz>

<https://www.sankeibiz.jp/compliance/news/180115/cpc1801150500001-n1.htm>

◆「とちまるくん」のマンホール蓋を設置へ 栃木 <1/17 産経ニュース>

<http://www.sankei.com/politics/news/180117/plt1801170014-n1.html>

◆<水道3事業一体化>宮城県が制度枠組み年度内公表 民間参入、なお不安視 <1/16 河北新報>

http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201801/20180116_11018.html

=====

下水道ホットインフォメーション（2018.1.19 国からの最新情報です）

送信元：国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部下水道事業課企画専門官 堂蘭洋昭

=====

今週、2018 ミス日本「水の天使」に浦底里沙が選ばれました。私と同郷の鹿児島出身、薩摩おじよだそうです！今年一年、下水道界をはじめ、水の分野を一層明るくしてくれると思います。浦底さんのご活躍をお祈りしたいと思います。

★★★★★ 今週のヘッドライン ☆☆☆☆☆

- 2018 ミス日本「水の天使」が浦底里沙さんに決定（一般社団法人ミス日本協会）
- 汚水処理の事業運営に係る「広域化・共同化計画」の策定について（下水道事業課）
- 「下水污泥エネルギー化技術ガイドライン」を改訂し、下水污泥からの水素利用を推進します！（下水道企画課）

-
- 2018 ミス日本「水の天使」が浦底里沙さんに決定（一般社団法人ミス日本協会）
- 1月15日に第50回ミス日本コンテスト2018を開催し、2018ミス日本「水の天使」は浦底里沙さん（鹿児島県鹿児島市出身）に決定しました。NHK大河「西郷どん」にてくるような方言をあやつり、特技は鰹節削りと、地元愛に溢れています。これまでの水の天使は大学生が中心でしたが、高身長モデルは初めてのこととなります。浦底はモデルを志して単身上京し、プロポーション維持のため食や健康について人一倍関心を払って勉強をしています。
- これから1年間、下水道の役割などが多くの方に伝わるよう水の広報官・外交官として精一杯活動いたしますので、ご支援・ご協力のほどお願いいたします。

▼一般社団法人ミス日本協会 HP▼

<http://www.missnippon.jp/award/miss-water2018/>

- なお、2017ミス日本「水の天使」の宮崎あずさんは任期を終え、4月からアナウンサーとして活躍予定です。
- 2015ミス日本「水の天使」の柴田美奈さんも、4月からアナウンサーとして活躍します。社会人として羽ばたく彼女たちも、引き続き宜しくお願いいたします。

- 汚水処理の事業運営に係る「広域化・共同化計画」の策定について（下水道事業課）
- 国土交通省下水道部は、汚水処理の事業運営に係る「広域化・共同化計画」の策定について1月17日付けで下水道事業課長通知を発出いたしました。本通知では、関係4省（総務省、農水省、国交省、環境省）の連名にて、全ての都道府県における
- ・平成30年度中の可能な限り早期の計画検討体制の構築
 - ・2022年度までの「広域化・共同化計画」の策定
- をお願いしております。
- 国土交通省下水道部としても、都道府県と市町村の連携のもと、より効率的な下水道施設の整備・管理運営がなされるよう、引き続き財政面、技術面双方の支援を行ってまいります。

（参考）財政面での支援

- 「下水道広域化推進総合事業」の創設
- 平成30年度予算より、地方公共団体における汚水処理の広域化を促進するため、計

画策定から取組までを総合的に支援する「下水道広域化推進総合事業」を創設します。施設統合に必要な管渠整備の交付対象範囲拡充、及び、し尿等の受入施設整備の交付対象追加、をいたします。

(参考) 技術面での支援

● 広域化・共同化に関するモデル計画の策定支援

先行して「広域化・共同化計画」策定に取り組む都道府県を募集のうえ、秋田県、岩手県、静岡県、島根県、熊本県の5県を対象に、検討を支援しています。29年度は各県内の検討ブロック割り、30年度はモデル計画の検討支援を行い、それら検討成果を全国へ水平展開予定です。

● 広域化・共同化に関するモデル事業の検討支援

広域化・共同化の事業形成について積極的に検討する地域を募集のうえ、北海道、宮城県、金沢市、富田林市、兵庫県、北九州市を対象に、モデル事業として検討を支援しています。検討成果については、事例集として全国へ水平展開予定です。

○「下水汚泥エネルギー化技術ガイドライン」を改訂し、下水汚泥からの水素利用を推進します！
(下水道企画課)

下水汚泥からは、昨年12月に『水素基本戦略(※)』が策定されるなど、注目が集まっている水素の製造が可能であり、国土交通省では、平成26～27年度、福岡市において下水汚泥からの水素製造に関する技術実証(B-DASHプロジェクト)を実施してきたところです。

このたび、地方公共団体等における下水汚泥からの水素製造・供給技術の導入検討を支援するため、地方公共団体や民間企業が検討の際に必要な情報をとりまとめた「下水汚泥エネルギー化技術ガイドライン」(平成23年3月策定、平成27年3月改訂版公表)を平成30年1月に改訂し、水素利用技術に関する情報を追加した平成29年度版を策定しました。

是非ご参照いただき、水素利用も含めたエネルギー利用のご検討にご活用ください！

★今回の改訂のポイント★

(1)「下水汚泥エネルギー化技術ガイドライン 平成29年度版」に下記事項を新たに追加しました。

- ・近年の水素社会の実現に向けた動向
- ・下水汚泥から水素を製造・供給する技術や導入事例
- ・その他の下水汚泥エネルギー化技術に関する最新の技術情報 等

(2) エネルギー化技術導入に係る事業費や省エネ効果等の概算を行う

「下水汚泥のエネルギー化導入簡易検討ツール」の対象に、水素製造・供給技術を追加しました。

※ ガイドライン及び簡易検討ツールは、以下の国土交通省ホームページで公開して

います。

http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewerage/crd_sewerage_tk_000124.html

※ 平成 29 年 12 月 29 日 第 2 回再生可能エネルギー・水素等関係閣僚会議決定

<http://www.meti.go.jp/press/2017/12/20171226002/20171226002.html>

【参考情報】

◆マンホール 300 万個老朽化 下水道で 2 割、業界推計 スリップ事故の危険も
〈1/7 産経ニュース〉

<http://www.sankei.com/life/news/180107/lif1801070039-n1.html>

◆和歌山初「木質バイオマス発電所」、上富田に 6 月着工 事業運営会社と調印 〈1/13
産経ニュース〉

<http://www.sankei.com/region/news/180113/rgn1801130034-n1.html>

◆高知県が下水汚泥で発電事業 民間にメタンガス売却 〈1/17 高知新聞〉

<https://www.kochinews.co.jp/article/152509/>

◆「とちまるくん」のマンホール蓋を設置へ 栃木 〈1/17 産経ニュース〉

<http://www.sankei.com/politics/news/180117/plt1801170014-n1.html>

◆マンホールカード“敦賀市版”発行 市の魅力、一枚に 〈1/18 中日新聞〉

<http://www.chunichi.co.jp/article/fukui/20180118/CK2018011802000020.html>

◆<阪神大震災 23 年> 水道管の破損復旧訓練・・・福山 〈1/18 読売オンライン〉

<http://www.yomiuri.co.jp/local/hiroshima/news/20180118-0YTNT50137.html>

発行元：公益財団法人 日本下水道新技術機構 企画部

〒162-0811 東京都新宿区水道町 3 番 1 号 水道町ビル 7F

TEL 03-5228-6511(代表) FAX 03-5228-6512

ホームページ：<https://www.jiwet.or.jp/>

○お伝えしたい情報をお持ちの方はこちらから → jiwet@jiwet.or.jp

○メルマガ配信登録についてのお問い合わせはこちらから

→ jiwet@jiwet.or.jp

○メルマガ配信停止はこちらから

→ <https://www.jiwet.or.jp/member-mag-unsubscribe>

○ニューズレターはこちらから

→ <https://www.jiwet.or.jp/newsletter/20170426/index.html>
